

管内農業ではドローンの活用が進んでいます



レンコンの農薬散布

レンコンのイネネクイハムシ、アブラムシ防除を目的として、ドローンによる農薬散布が今年も実施されました。

ドローン防除の取組みは今年で8年目となり、散布面積は延べ34ha、昨年比で約163%となっています。農業者からは省力効果に対する評価が高く、今後も利用の拡大が期待されます。



ドローンによる追肥



水田作の農薬・肥料散布

水田作（水稻・小麦・大豆）では、水稻の斑点米カメムシ類、小麦の赤かび病、大豆のハスモンヨトウや吸食性カメムシ類などの病虫害防除に主にドローンが活用されています。

ドローンの利点として、ほ場を踏み荒らさないこと、作業時間が短く省力的であること、制御が精密で均一な散布ができることなどが挙げられます。そのため、病虫害防除のみでなく、肥料散布での活用も広まりつつあります。

水稻では、近年問題となっている高温登熟障害への対策として追肥が有効とされています。しかし、従前の動力散布機での追肥は重労働となることから、取組みが進みにくい状況でした。ドローンの普及により、省力的な追肥作業が可能となったことから、今後、ドローン追肥による高温登熟対策の取組拡大が期待されます。



花ハスの収量予測

ドローンは、農薬や肥料の散布だけでなく、センサーやカメラを搭載することで、収量予測などのセンシング※にも活用できます。

愛西市の特産である花ハスでは、ドローン技術を用いた収量予測に取り組んでいます。花ハスは、需要期がお盆直前の約10日間に集中していることから、産地と市場が連携して適切な量を消費者へ届ける体制づくりが重要です。特に、産地から収量予測情報を提供することで、市場側が生花店や量販店に計画的に販売できるというメリットがあります。

そこで、名古屋大学と協力し、ドローンに搭載したカメラによる空撮画像から収量を予測する技術開発を進めています。高精度な収量予測情報を早期に市場へ提供できるようになれば、販売の安定化や高単価での取引に繋がることが期待されます。

※センシングとはセンサーを用いて温度や光など様々な情報を測り、コンピューターが処理できるデジタルデータに変換する技術のこと



花ハスのドローン空撮

関係機関と連携した担い手確保の取組

海部地域では農業経営体数の減少が続いており、この10年間で半数以下となっています。地域農業の発展には担い手不足が大きな課題となっています。こうした状況を踏まえ、関係機関が連携し、担い手の確保・育成に向けた新たな取組を進めています。

◇愛知県全域 「あいちから」

県は令和8年2月にスマートフォン等からアクセスできるスタートガイド「あいちから」を開設しました。このサイトは、就農希望者が必要な情報を一元的に入手できるウェブサイトで、就農までの流れや支援制度、各地域の研修機関の紹介、就農フェアや体験イベントの情報などを掲載しています。

また、先輩就農者のインタビューや農業経営シミュレーション機能なども備え、就農後の経営や暮らしを具体的にイメージできる内容となっています。



「あいちから」QRコード

◇海部地域 「海部地域新規就農支援協議会」

担い手の確保・育成を図るため、令和8年2月に「海部地域新規就農支援協議会」が設立されました。協議会は、農業者・J A・県等の関係機関が参画し、連携しながら海部地域農業の魅力や暮らしやすさ、研修機関の情報などを広く発信しています。更に、就農希望者の掘り起こしや受入体制の強化に取り組み、新たな担い手の確保・育成を推進しています。



令和8年7月 就農相談会へ出展

海部地域農業者セミナーのご案内

農業改良普及課はJ A あいち海部と連携して、新規就農者・女性農業者を中心とした地域農業者の経営スキル向上を目的としてセミナーを開催しています。

対象者	将来雇用を考えている方、現在雇用している方、職場コミュニケーションに興味のある方、その他希望者
内 容	日 時：令和8年11月27日(金) 午後1時～午後3時30分 場 所：J A あいち海部北部営農センター 2階研修室 テーマ：従業員との関係づくり、 やる気を引き出す環境づくり(仮) 講 師：キャリアデザイン研究所 中小企業診断士 佐々木史光氏
申込先	・ 農業改良普及課 TEL 0567-55-7611 E-mail ama-fukyu@pref.aichi.lg.jp 申し込みQRコード：  ・ J A あいち海部農産部担い手課

農作業安全

令和7年の1年間に県内で確認された農作業事故



事故要因でもっとも多いのは「転倒・転落」で、転倒・転落事故の88%が60代以上で発生しています。また、農業機械事故は他の事故要因に比べ、重大事故になりやすいです。できるだけ一人で作業しないようにしましょう。

10時から11時、14時から15時が事故発生の多い時間帯です。これらは、作業が慣れてくる時間帯になるため、こまめに休憩をとって、緊張感を持って安全第一で作業をしましょう。